

# 千葉氏系図

良文 - 忠頼 - 忠常 - 常将 - 常長 - 常兼 - 常重 - 常胤  
 良正 - 良将 - 将門  
 国香 - 貞盛

平将門の乱(940)

平忠常の乱(1027)



# 千葉一族の歴史と4つの転換期

## 千葉氏ってどんな一族？

桓武天皇の子孫、高望王は寛平元年(889)に「平」姓を与えられ、皇族を離れ関東に下向しました。その後も高望の子孫は房総に留まり、常長の頃に千葉氏を名乗り、常重の代に千葉を本拠地としました。

鎌倉時代には源頼朝を支え、幕府の成立に貢献した常胤によって、千葉一族は大武士団へと発展していきます。

しかしその後、九州千葉氏との分裂、享徳の乱による千葉宗家の滅亡、武藏千葉氏との対立などが起こります。

更に戦国時代になると、本佐倉城への本拠地移転、頻発する一族内の権力争いにより、当主の交代が続きます。

戦国末期には後北条氏の養子を受け入れますが、天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原城後北条氏攻めによって滅亡しました。

ここでは千葉一族の分裂・権力争いなど4つの出来事について紹介します。

## 1 九州千葉氏との分裂

鎌倉時代中頃、九州に所領があった千葉頼胤は、元寇に参戦した際の傷が原因で没します。

跡を継いだ宗胤は元寇の後も九州に留まり、弟の胤宗が下総千葉氏の家督を継承しました。

鎌倉幕府が滅亡し南北朝動乱が起きると、胤宗の子貞胤が南朝方に、宗胤の子胤貞が北朝方に味方し、一族間での対立に発展します。

建武2年(1335)には、貞胤方の千葉楯(城)が胤貞方に攻撃されています。しかし翌年に貞胤が北朝方に降伏したことで両者による内乱が終息し、ほどなくして胤貞も死去します。

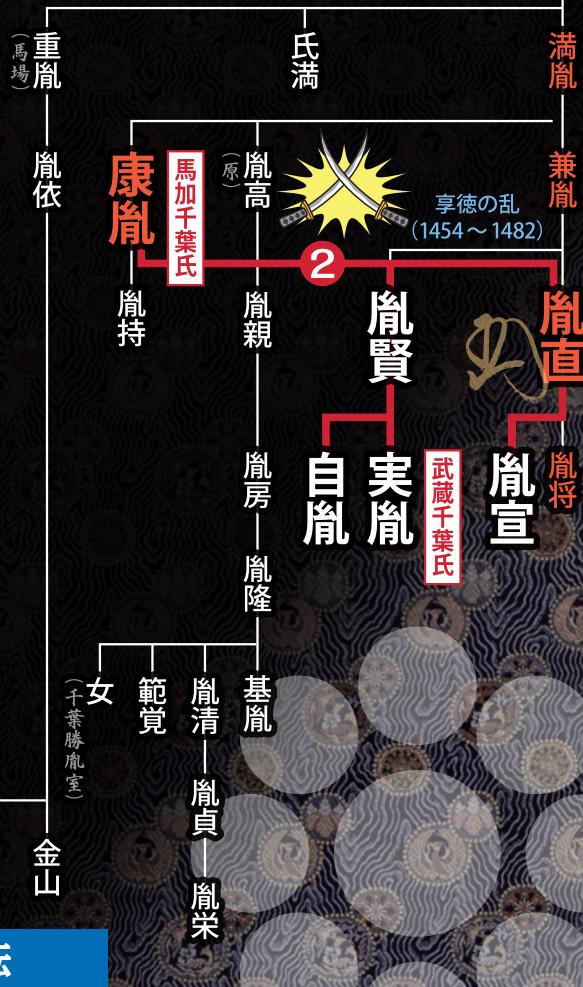
これ以後、貞胤系統の下総千葉氏と、胤貞の子胤泰の九州千葉氏に分かれていきます。

## 2 千葉氏宗家の滅亡

室町時代中期の関東では、鎌倉公方足利成氏と関東管領上杉氏の対立により、享徳の乱が発生します。この時、宗家の胤直は上杉側に味方し、胤直の叔父の馬加康胤は公方側に味方しました。

康正元年(1455)3月、康胤が千葉城を攻撃し、胤直・  
胤宣父子は多吉城に、弟の胤賢は志摩城(多古町)へ逃れ  
るも、同年8月に落城し自害します。市川城で籠城してい  
た胤賢子息の実胤・自胤も、上杉氏の支援を受け武藏へ  
と逃れました(武藏千葉氏の成立)。

これにより康胤が千葉氏を継承しますが、翌年上杉方との戦いに敗れ戦死してしまいます。こうして当主の死去が続いた千葉氏の家督は、庶流の岩橋輔胤が継承し、佐倉千葉氏として戦国時代へと続いていきます。



### 3 本佐倉城への移転

文明3年(1471)、上杉方による攻撃で、一時成氏が拠点の古河城から千葉氏の元へ逃れると、輔胤と子息の千葉孝胤がこれを庇護し成氏を支援します。

しかし文明10年(1478)に成氏方と上杉方で和睦交渉が始まると、孝胤は武藏千葉氏の復権により自身の家督継承の正当性が危うくなる事を恐れ、これに反対します。更に武藏千葉氏を復権させようと上杉方の太田道灌が下総に侵攻しますが、完全に千葉氏を討伐することはできませんでした。

また同時期、千葉氏は本拠を本佐倉城へと移します。印旛浦に接した交通の要衝で、戦国期を通して佐倉千葉氏の本拠地となり、勝胤・昌胤の頃には最盛期を迎えました。

## 4 脇富の家督就任

天文15年(1546)に昌胤が死去し、跡を継いだ息子の利胤も翌年に死去します。利胤には男子がないかったため、家督は親胤が継承しました。

しかし親胤は日頃から驕っており、家臣達が胤富を当主の座に就けようと画策し、弘治3年(1557)に親胤は暗殺されたと伝わっています。親胤は胤富の弟とされていますが実際には甥であり、胤富が親胤と彼の父親(某)を傀儡とし、親胤の死後自らが当主の座に就いたという説もあります。

何れにせよ利胤・親胤の死と、胤富による当主交代の背景には、千葉一族内での激しい権力争いがあったと言えるでしょう。

